

4~6月期の業況は改善
【特別調査】 「アフターコロナと中小企業」

【調査要領】
 調査時点：2023年6月上旬
 調査対象：西兵庫信用金庫お取引先103社
 調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査
 調査企業数：103社
 調査票回収：103社
 調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス) による分析
 景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	19
不動産業	5
総計	103

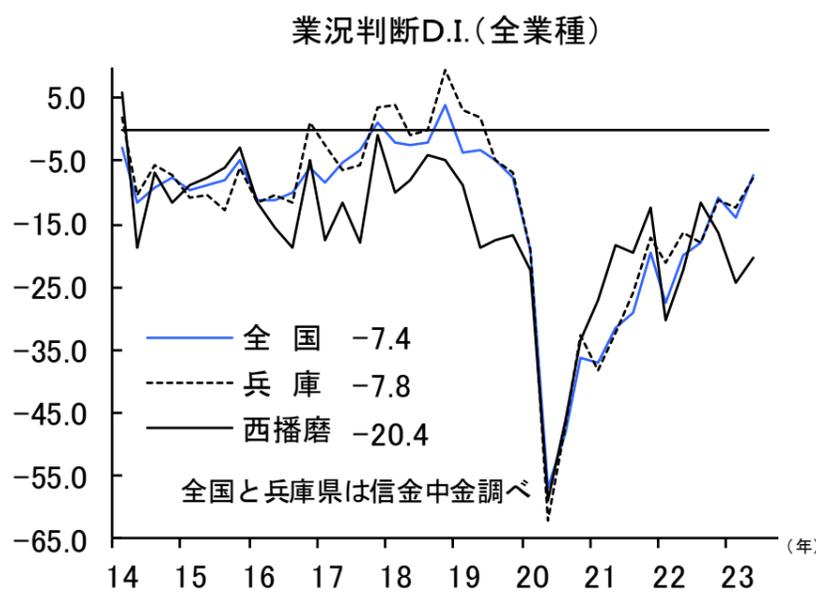
（例）

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50% - (悪い)25% = (D.I.)25

全業種総合

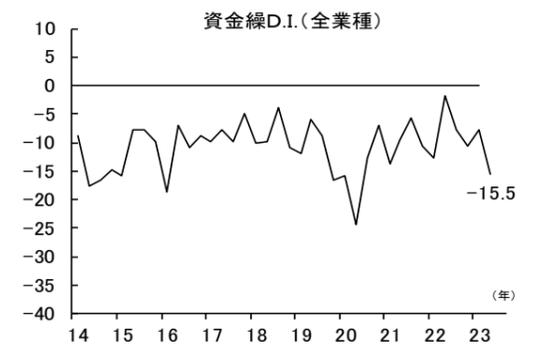
～景況感は改善～
 23年4~6月期（今期）の業況判断 D.I.は△20.4 と、前期比 3.9 ポイント改善した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業が 1.9 ポイント増加し、「悪い」と回答した企業が 1.9 ポイント低下したことによる。
 前年同期比の売上額判断 D.I.は△9.7 と前期比 10.7 ポイント低下。同収益判断 D.I.は△32.0 と前期比 4.8 ポイントの低下となった。業種別の業況判断 D.I.は、製造業、小売業、不動産業が改善した一方、サービス業、建設業は低下、卸売業は横ばいとなった。
 全国の業況判断 D.I.は△7.4 と前期比 6.5 ポイント改善、兵庫県では△7.8 と同 4.6 ポイント改善した。



【業種別天気図】 過去4四半期の業況判断 D.I.を平均して判定

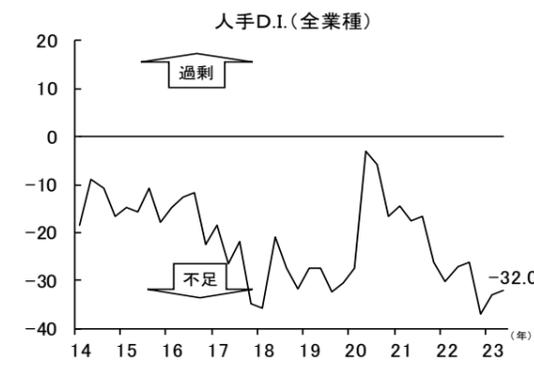
時期	2023年 1~3月	2023年 4~6月	2023年 7~9月 (見通し)
総合	☁	☁	☔
製造業	☁	☁	☁
卸売業	☁	☁	☁
小売業	☔	☔	☔
サービス業	☔	☁	☔
建設業	☔	☔	☔
不動産業	☔	☁	☔

快晴 晴れ 晴れ時々曇り うす曇り 曇り 雨 大雨
 好調 ← → 低調



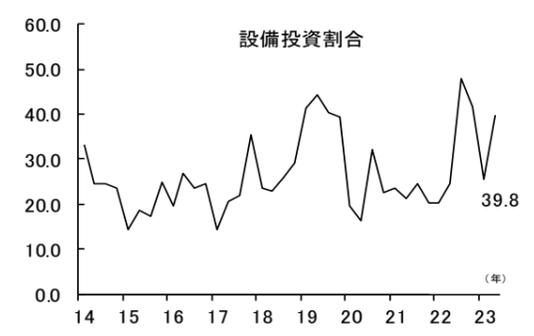
～販売価格判断 D.I.は上昇、仕入価格判断 D.I.は低下～
 販売価格判断 D.I.は 19.4 と前期比 3.9 ポイント上昇した。仕入価格判断 D.I.は 49.5 と前期比 3.9 ポイント低下した。

～資金繰り判断 D.I.は低下～
 資金繰り判断 D.I.は△15.5 と、前期比 7.7 ポイント低下した。業種別では、製造業が前期比 6.2 ポイント、卸売業が同 18.2 ポイント、小売業が同 5.9 ポイント、サービス業が同 5.2 ポイント、建設業が同 5.2 ポイント、不動産業が同 20.0 ポイント低下した。



～人手過不足判断 D.I.は、人手「不足」感が少し弱まった～
 雇用面では、人手過不足判断 D.I.が△32.0(マイナスは人手「不足」超)と前期比 1.0 ポイント上昇し、人手「不足」感が少し弱まった。残業時間判断 D.I.は△2.9 と、前期比 3.9 ポイント低下した。残業時間が「減少」したとする企業の割合が増加したことによる。

～設備投資実施企業割合は上昇～
 設備投資実施企業割合（不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合）は 39.8%と、前期比 14.3 ポイント上昇した。



～来期の景況感は今期実績比改善の見通し～
 来期の予想業況判断 D.I.は△9.7 と今期実績比 10.7 ポイントの改善を見込んでいる。
 業種別の予想業況判断 D.I.は、製造業が今期実績比 9.4 ポイント、小売業が同 5.9 ポイント、サービス業が同 15.8 ポイント、建設業が同 21.0 ポイント上昇。卸売業、不動産業が横ばいとなる見通し。

<経営上の問題点>

経営上の問題点としては、「原材料高」が 33%、「人手不足」が 31%と多く、その他では「売上の停滞・減少」が 27%、「利幅の縮小」、「人件費の増加」が 19%となった。

経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	原材料高	33%
2位	人手不足	31%
3位	売上の停滞・減少	27%
4位	利幅の縮小	19%
4位	人件費の増加	19%

<当面の重点経営施策>

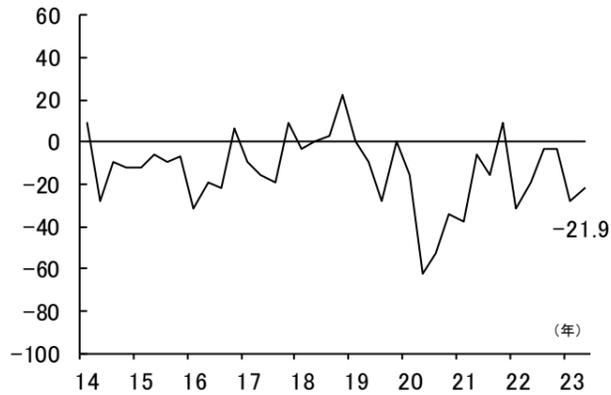
当面の重点経営施策としては、「人材を確保する」が 41%、「経費を節減する」が 37%と多く、その他では「販路を広げる」が 29%、「情報力を強化する」が 16%、「機械化を推進する」が 15%、「教育訓練を強化する」が 13%となった。
 前回に引き続き、原材料高の高騰により、経費削減を重点的に取り組む事業者が多い。

当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	人材を確保する	41%
2位	経費を節減する	37%
3位	販路を広げる	29%
4位	情報力を強化する	16%
5位	機械化を推進する	15%
6位	教育訓練を強化する	13%

製造業

業況判断D.I.(製造業)



～製造業の景況感は改善～

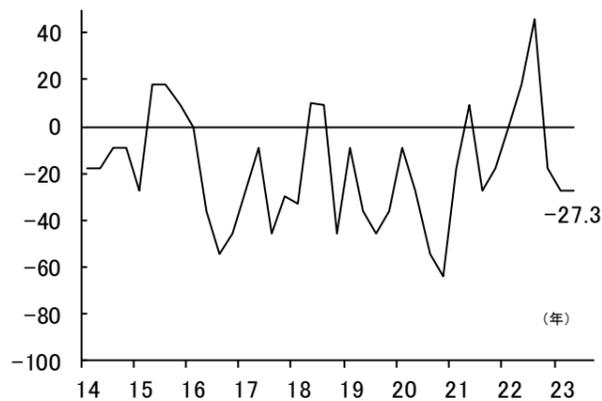
今期の業況判断 D.I.は $\Delta 21.9$ と、前期比 6.2 ポイント改善した。

前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 21.9$ と前期比 34.4 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 37.5$ と前期比横ばいとなった。

設備投資実施企業割合は 34.4%と、前期比横ばい。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 3.1$ と、前期比 6.2 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 18.8$ と前期比 6.2 ポイント上昇し、人手「不足」感が弱まった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 12.5$ と今期実績比 9.4 ポイントの改善を見込んでいる。

卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



～卸売業の景況感は横ばい～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と、前期比横ばいとなった。

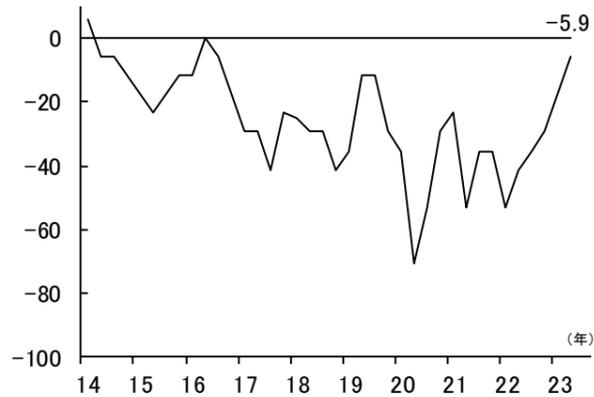
前年同期比売上額判断 D.I.は 18.2 と前期比 9.1 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と前期比 18.2 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 18.2$ と前期比 18.2 ポイント低下、人手過不足判断 D.I.は $\Delta 36.4$ と前期比 9.1 ポイント低下し、人手「不足」感が強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 27.3$ と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

小売業

業況判断D.I.(小売業)



～小売業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 5.9$ と前期比 11.7 ポイント改善した。

前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0 と前期比 5.9 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 23.5$ と前期比横ばいとなった。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 29.4$ と、前期比 5.9 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 29.4$ と前期比横ばいとなった。

来期の予想業況判断 D.I.は 0.0 と、今期実績比 5.9 ポイントの改善を見込んでいる。

サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



～サービス業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 21.1$ と、前期比 10.6 ポイント低下した。

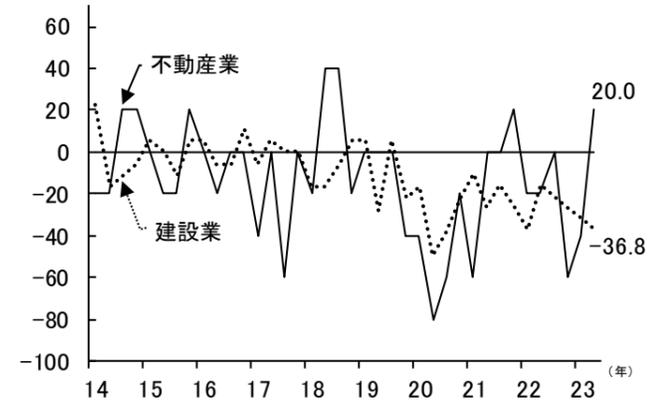
前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 21.1$ と前期比 21.1 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 31.6$ と前期比 31.6 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 26.3$ と前期比 5.2 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 52.6$ と前期比横ばいとなった。残業時間判断 D.I.は 5.3 と、前期比 10.5 ポイント低下した。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 5.3$ と、今期実績比 15.8 ポイントの改善を見込んでいる。

建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



～建設業の景況感は低下～

今期の建設業の業況判断 D.I.は $\Delta 36.8$ と前期比 5.2 ポイント低下。前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 21.1$ と前期比 5.2 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は $\Delta 47.4$ と前期比 10.5 ポイント改善した。受注残判断 D.I.は 0.0 と、前期比 21.1 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、前期比 5.2 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 36.8$ と、前期比横ばいとなった。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 15.8$ と、今期実績比 21.0 ポイントの改善を見込んでいる。

～不動産業の景況感は改善～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は 20.0 と前期比

60.0 ポイント改善。前年同期比売上額判断 D.I.は 60.0 と前期比 60.0 ポイント上昇。同収益判断 D.I.は 20.0 と前期比 20.0 ポイント上昇した。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 20.0$ と前期比 20.0 ポイント低下した。在庫過不足判断 D.I.は 0.0 と前期比 40.0 ポイント改善した。来期の予想業況判断 D.I.は 20.0 と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

調査員のコメント

製造業：材料価格の上昇により収益は減少傾向。価格転嫁に努めている。

卸売業：売上、資金繰りに問題なし。販路拡大、経費削減に取り組んでいる。

小売業：コロナ禍前まで売上回復。原材料・仕入価格高騰の影響が出ている。収益は横ばい。

サービス業：自動車販売は半導体供給制約の緩和による売上増加を想定している。

建設業：材料価格の高騰等で利幅は減少。リフォーム工事は安定的に受注があるが、新築の受注は価格上昇により低迷している。

不動産業：コロナ禍以前の状況に戻つつあるが、新規物件の取得については、物件価格の高騰により慎重になっている。情報力を強化し販路拡大に力を入れ取り組んでいる。